

## 委員会視察報告書

委員会名	総務常任委員会
視察地	富山県砺波市
調査項目	1 散居村型モビリティ「チョイソコとなみ」運行について 2 地域公共交通全般について
調査目的	持続可能な地域公共交通についての調査・研究
日時	令和6(2024)年7月3日(水) 午前10時～11時30分
場所	砺波市役所(富山県砺波市栄町7番3号)
調査概要	<p>■砺波市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 人口 46,861人(R6.4.1)</li><li>② 世帯数 17,699世帯</li><li>③ 面積 127.03k㎡</li></ul> <p>■砺波市の特色</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 全国的にも特異な景観として散村が広がっている。</li><li>② 砺波平野の中心部で道路事情が良い。</li><li>③ 庄川峡、将川温泉郷など観光資源に恵まれている。</li><li>④ チューリップ球根の出荷量が日本一のまち。</li><li>⑤ 良質種もみの県外向け受託生産量が日本一のまち。</li></ul> <p>■「チョイソコとなみ」の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「チョイソコとなみ」は砺波市民の外出を応援する新しい移動手段です。</li></ul> <p>●「チョイソコとなみ」は、ご自宅前⇄指定停留所で乗降する乗り合い送迎サービスです。</p> <p>●交通事情や他のお客様の乗り合いなどにより、到着時間が前後することがあります。指定時刻の5分前には、ご自宅前または停留所でお待ちください。他のお客様の状</p>

況により、車が到着した際に不在の場合、お待ちできないことがあります。

- 運賃（片道） : 大人（中学生以上） 500 円  
小学生・障がい者 250 円  
未就学児は無料

- 乗車予約は、お電話にて 1 週間前から利用希望日時の 1 時間前まで受け付けます。

- 乗車予約の際に乗車になりたい便をオペレーターにお伝えください。

運行日：月曜日～土曜日

出発地	(行き) 自宅⇒目的地		
運行便/時間	1 便/9 時	2 便/10 時	3 便/13 時

出発地	(帰り) 目的地⇒自宅		
運行便/時間	1 便/11 時	2 便/12 時	3 便/15 時

- 9 時便の乗車希望は前日まで（月曜の場合は前週の土曜日まで）にご予約ください。

- 予約状況により、乗車希望に沿えない場合もありますので早めのご連絡をお薦めします。

- 変更やキャンセルする場合は必ず、お電話にてご連絡をお願いします。

- 持参できる荷物は、通常一人で持てる手荷物程度の大きさです。トランクは使用できませんのでご注意ください。

#### ■「チョイソコとなみ」の利用方法

- ① 申し込みをする。

「チョイソコ会員登録申込書」に必要事項を記入し郵送します。

- ② 会員証が届く。

カードサイズの会員証が送られてきたらご利用可能

です。お申込後、約2週間程度で会員証が届きます。

- ③ 予約センターに電話する。
  - 1) お名前と会員番号
  - 2) 利用希望日と利用希望便
  - 3) 乗り場と行先
  - 4) 着きたい時刻
- ④ ご自宅で待つ。
- ⑤ 目的地に着く。

■ デマンド型交通 市内全域化の経過

- ① 平成29年10月～  
「愛のりくん」として運用開始
- ② 令和2年10月～  
「愛のりくん」のエリア拡大
- ③ 令和4年10月～  
「チョイソコとなみ」として運行開始  
（「愛のりくん」から名称変更）
- ④ 令和5年10月～  
「チョイソコとなみ」を市内全域に拡大

■ ウチマチサポーター（スポンサー制度）

- ① 停留所数 265カ所
  - ウチマチサポーター 148件
  - サポーター以外 117件
- ② 令和5年10月～  
ウチマチサポーターズ制度開始。  
スポンサー料を支払う事業所に停留所を設置。  
（初年度は無料）
- ③ 令和6年10月～  
スポンサー料の有料化

■ 「チョイソコとなみ」の利用状況

- ① 月別予約件数
  - 令和4年10月 11.3件/日
  - ↓
  - 令和6年5月 34.0件/日
- ② 令和4年10月～令和6年5月の性別内訳

	<p>男性の利用 2,094 件 (25.2%) 女性の利用 6,216 件 (74.8%)</p> <p>③ 登録者数 1,447 人。70 歳以上の登録者が全体の約 85%</p> <p>④ 利用者数 432 人。70 歳以上の利用は全体の約 90% 利用割合は 29.9%</p> <p>⑤ 時間帯別降車利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行き 1 便は医療関係の利用が多い。(約 70%)</li> <li>・行き 2 便は商業施設の利用が多い。(約 30%)</li> </ul>	
視察の様子		
	一砺波市議場にて一	一砺波市役所委員会室にて一
質疑応答	<p><b>質問</b> 予算規模について伺いたい。</p> <p><b>回答</b> 実証運行なのでデジタル田園都市国家構想交付金を利用。年間 6,000 万円の 3 年間で約 1 億 8,000 万円。実績では運行委託料で 5,000 万円(7 台で運行)。配車システムで 1,000 万円。導入後の今年度は、配車システムで 700 万円。10 月より本格運行になるので上記の交付金はなくなる。</p> <p><b>質問</b> オペレーター経費はその中に含まれるか。</p> <p><b>回答</b> 含まれる。</p> <p><b>質問</b> 請負会社はどこか。</p> <p><b>回答</b> 地元の砺波観光交通である。</p> <p><b>質問</b> 他に市内にタクシー会社はあるか。</p> <p><b>回答</b> 1 社あるが資本規模は大きくない。しかし、台数調整を行うことにより今後は参入してもらいたいと思っている。</p>	

	<p><b>質問</b> 現在、参入していないことで問題は発生しているか。</p> <p><b>回答</b> 大きな反発はないものの、競合している部分は確かにあるのでお互いが気を遣っている。</p> <p><b>質問</b> 請け負っているタクシー会社の業績への影響は。</p> <p><b>回答</b> 影響は少なからずあるとは思いますが、なるべく負担にならないように運行時間等で協議している。慎重に進めており、今後の課題である。</p> <p><b>質問</b> 調整等が大変だと思うが、交通政策を担っている市の職員数は。</p> <p><b>回答</b> 「チョイソコとなみ」と「鉄道」と「市営バス」の三本柱が所感でありで2人である。</p>
委員会所感	<p><b>【佐藤正典委員長】</b></p> <p>砺波市は富山県西部の砺波平野に位置し、人口 46,861 人の中核市である。その大きな特徴は集落が全域に細かく点在し、美しい田園風景を見せる、日本最大級の「散居村（さんきょそん）」である。</p> <p>この散居村によるまちの形成こそが、“ウチとマチをつなぐ”というキャッチフレーズを持つ、散居村型モビリティ「チョイソコとなみ」の大きな特徴であった。</p> <p>柏崎市との大きな違いは、このデマンド型交通を人口が密集する市街地からではなく、標高の高い丘陵地東側から導入を始めた点にある。効率・収益性よりも、点在して居住する、高齢者の生活の足確保を優先したものと理解した。</p> <p>更に、この散居村型の特徴としては、バス停設置タイプではなく、自宅から乗降車するタイプとしている。また、エリア分けせずに市内全域でデマンド型交通を導入（令和5年10月～）している。これらの対応は、砺波市が柏崎市と比較してコンパクトな面積（127 km<sup>2</sup>）であり、目立った人口集積地が無いことで可能としているものだ。</p> <p>デマンド交通の運営で大きなウエイトを占める予約業務については、運行会社（となみ観光交通株式会社）に委託しているが、高齢者がメインターゲットであることを考慮し、現在は予約センターへの電話予約のみの利用としている。</p> <p>散居村型モビリティ「チョイソコとなみ」のこれらの事業運営は、中山間地に多くの地域、集落を持つ柏崎市にとって、今後、</p>

大変参考となる取組であった。

**【近藤副委員長】**

砺波市は、広大な平野に民家が点在する集落携帯「散居村」を大切なものとして捉え、そこでの暮らしを守る観点から「チョイソコとなみ」を導入している。散居村型モビリティと銘打っている時点で、政策的スタンスが明確に示されていると思う。都市部への人口集中を誘導するコンパクトシティとは真逆の発想であるが、散居村を守るまちづくりを、砺波市の魅力と強みとして打ち出していることに感銘を受けた。

「チョイソコとなみ」は会員登録制・ドア to ドアで運行しており、受付は電話予約だけである。スマートフォンアプリやLINEでの予約を可能とした場合、経費が高くなるとの説明を受けたが、散居村で暮らす高齢者をターゲットにしているので、電話予約のみでも不都合はないのだろうと思われる。

3日間の視察全体を通して「持続可能な地域公共交通」は、住民のふるさとでの暮らしを守ることにつながることを再認識した。その観点から、本委員会における調査・研究をまとめていきたい。

**【山本委員】**

散居村型モビリティ「チョイソコとなみ」運行については令和5年度10月から本格運行しており、登録者数1447人（70歳以上の登録者が全体の85%）で、国のライダー補助金を活用して、約5000万円で事業者に運行委託を行っている。特に、「ウチマチサポーター」制度（病院や医院が多く登録147軒）を活用して年間1万円の協賛金を採用している。地域公共交通全般については高齢者運転免許自主返納支援や公共交通の利用促進の説明があった。砺波市の公共交通関係施策の担当職員は2人で交通施策の3本柱（鉄道、市営バス、チョイソコとなみ）を行っており、柏崎市と比較して人口が約3分の2で、面積が約3分の1だが川で地域が分断されている散居型モビリティの大変さがわかり参考になった。

**【持田委員】**

「チョイソコとなみ」の運行は山間地、移動確保の不便な地域からスタートさせ、検証しながら広げていくとの観点は優れている。

全国的にも特異な景観として、カイニヨと呼ばれる屋敷林に包まれる「散村」の広がりが市の大きな特徴であり、歴史的にも議論、協議が必然的に盛んな地域と思われる。それらを通じて、まちづくりの知識の蓄積と基盤があるように思われる。

#### 【佐藤和典委員】

砺波市は、市街地以外が広範囲にわたって低密度となっている「散居村」であり、面積が 127 km<sup>2</sup>と狭いことが特徴である。これまでの間、「散居村内」を路線バスとして運行してきた非効率さが理解できる。このような特徴を鑑み「チョイソコとなみ」の運行においては、停留所が設定されていない。したがって、「自宅⇒目的地」「目的地⇒自宅」となる「ドア to ドア」の形態での運行としている。したがって、既存のタクシーと競合してしまうため、運航便として行き帰りで一日三本ずつの時間指定を行っている。また、ウチマチサポーター（スポンサー制度）を導入しており、柏崎市はスポンサー料の金額も含めて導入すべきか検討する価値を感じた。

#### 【星野委員】

砺波市「チョイソコとなみ」は散居村（散居村とは、市街地以外は、広範囲にわたり低密度と住宅が分散されている）と区域が 127 平方キロと特殊性のある居住地に対して日中運行されています。朝夕は市営バスで対応と実によく考えられている公共交通です。導入にあたっては、平成 29 年 10 月から「愛のりくん」として運航開始「人口の少ない所から導入されている。この考え方は参考になりました」からエリアを拡大現在「チョイソコとなみ」となり市内全域へ拡大「エリア分けしないで運行」された。分散されている居住なのでほぼタクシー替わりで、自宅前（散村対応）から目的地まで行けます。啓発方法ではパンフレットと利用方法を映像（PV10 分程度）で解り易市民に啓発しています。この手法は柏崎市でも導入を考えて良いと思いました。他多くの取り組みについて説明を受けとても参考になりました。砺波市様の取り組みを更に研究していきたいと思えます。